



冷たい水をコップに入れると、水てきがつくのはなぜ

水蒸気は冷やされると水のつぶになる

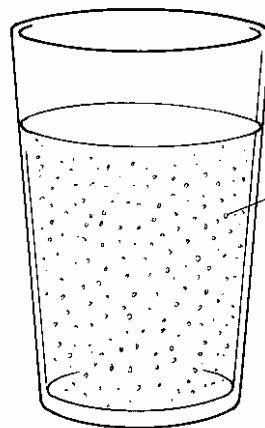
暖かいときに、コップに氷水などの冷たい水を入れておくと、コップのまわりに小さな水てき(水のつぶ)が付きまします。これは、コップのまわりの空気が冷やされて、空気中の水蒸気が水てきになったからです。

水蒸気は空気の温度が下がったり、冷たい物にふれて冷やされたりすると、小さな水のつぶになります。

空気中に水蒸気がある

水が気体の水蒸気になることを、水の蒸発といいます。水がふっとうしているときは、水がさかんに蒸発しています。水がふっとうしていなくても、水の表面からたえず少しずつ蒸発が起きています。

水は海や湖、川や池、地面などからも、たえず蒸発しています。また、わたしたちの生活の中で、水をいつも利用しているので、空気中には、いつでも水蒸気がふくまれています。(監修・小川 格)



冷えているコップについた水てき

